

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270500780
法人名	医療法人 橋口整形外科医院
事業所名	グループホーム平の庄
訪問調査日	平成 21 年 1 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 30 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270500780
法人名	医療法人橋口整形外科医院
事業所名	グループホーム平の庄
所在地 (電話番号)	長崎県大村市宮小路1丁目91-3 (電話) 0957-55-2816

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成21年1月27日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 7人, 非常勤 12人, 常勤換算 7.8人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(平成 20年 12月 11日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国立長崎医療センター、大村市民病院、中澤病院、南野病院、たしろ内科医院、橋口歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

隣には公民館がある閑静な住宅地に位置しており、広い敷地には家庭菜園を設けている。菜園で収穫された野菜などは、食卓に並び、利用者の収穫と食の楽しみになっている。
「その人らしくゆっくりゆったり」という理念のもと、運営者、管理者、職員はともに協力し合い、一人ひとりを大切にケアの継続に取り組んでいる。敷地内の菜園での農作業や避難訓練など、近隣住民の協力を得ながら行っており、地域との付き合いも積極的に行われている。
開設時より、利用者の終末期の支援にも取り組んでおり、現在も重度化した利用者が多い中、本人や家族の希望に寄り添い、状況に合わせた支援に努めており、利用者、家族等にとって安心できる終の棲家となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価からの課題等について協議し、記録を回覧して全職員が把握できるようにしており、改善計画シートを活用し、実行できる体制づくりを行っている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
②	今回の自己評価は、常勤職員が取り組み、会議で評価内容を確認して管理者が最終的に意見を集約している。運営推進会議の出席者や家族に報告し、外部評価結果についても閲覧してもらえるよう声かけを行っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
②	運営推進会議は2か月に1回開催しており、回を重ねるごとに出席者からの意見も出てくるようになり、提案事項や協議事項についての協議が活発になっている。また、会議出席者がホームの行事に参加してくれたり、チラシの作成にアドバイスをもらったりしており、運営への協力が得られている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
③	家族あてに毎月ホーム便りを作成し、利用者の様子を写真を掲載して分かりやすく報告している。家族の意見は面会時には直接聞くようにしており、日々の申し送りノートに記録し、周知・対応に努めている。苦情に関しては苦情受付票を作成し対応を図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
④	自治会に加入し、年1回の総会には職員と利用者代表が参加している。火災訓練時には、事前にチラシなどで呼びかけを行っており、地域の方の参加協力が得られている。また、民生委員の訪問や舞踊の慰問、学生の実習生などを受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしくゆっくりゆったり」という理念のもと、倫理綱領を設けており、その中で地域との関わりについても示して、独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は理念を十分に理解し、利用者の主体性を尊重した対応に努め、理念の実現に向けた取り組みを行っている。また、職員はケアに追われる中でも反省を忘れず、原点の理念に立ち返ることを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、年1回の総会には職員と利用者代表が参加している。火災訓練時には、事前にチラシなどで呼びかけを行っており、地域の方の参加協力が得られている。また、民生委員の訪問や舞踊の慰問、学生の実習生などを受け入れている。	○	チラシの配布などによる行事への参加の呼びかけを行うなど、開かれたホームとなるよう活動しているので、今後は地域行事などに利用者とともに参加する機会を設ける等さらなる取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は一部の職員が取り組み、管理者が集約している。また、評価を通して日々のケアについて振り返りを行っている。外部評価結果は玄関に置いて、家族や運営推進会議のメンバーにも閲覧してもらえるよう声かけを行っている。	○	実際に自己評価に取り組んだ職員は、評価実施の意義を感じているため、全職員が評価に取り組むことで、評価の意義の理解を促し、自らのケアを振り返る機会を設けるよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、提案事項や検討事項について協議を行っており、その中から実際の取り組みに結びついた例もある。回を重ねるにつれて、メンバーの理解も深まり、意見が出しやすくなってきている。また、利用者も出席しており、話し合いに加わっている。		

長崎県 グループホーム平の庄

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、要介護認定結果やケアの質についての相談などができる関係づくりができています。また、月1回の介護相談員の訪問もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ホーム便りを作成し、各利用者家族に配布している。利用者の写真が盛り込まれた便りは、利用者の日々の暮らしぶりがわかり、家族にも好評である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前に、市を通して職員の言葉づかい等に対する家族の意見が届いたことなどを踏まえ、要望や苦情に関する報告様式を整え、全職員が把握し、ケアに反映するようにしている。日ごろの家族等の面会時などに出された意見や要望については、申し送りノートに記載し、職員が確実に把握するようにしている。	○	家族との関係性を見直しながら、現状に満足することなく細やかな意見の収集、伝達を繰り返し、信頼関係づくりに努め、家族が意見を出しやすいように取り組むことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は極力少なくしているが、事業所全体を把握してもらうためにユニット間の異動については必要に応じて行い、事業所全体を通じた馴染みの関係づくりを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には教育担当の職員が付き支援し、夜勤も最初から1人で行うことなく、状況を把握してもらうように努めている。研修案内は回覧し、希望した研修には優先的に勤務の都合をつけて参加できるように配慮している。また、職員の自発的な資格取得にも協力しあっているほか、ホーム独自に講師を招き研修の機会を設けるなどの取り組みも行っている。	○	職員の研修の機会の確保については、職員の自主性に頼らず、業務として研修参加できるよう取り組み、受講者からの報告会、勉強会を設けることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には管理者が参加している。協議会の中には、職員が自由に参加できる「各駅停車」という集まりがあり研修会を行っているため、希望する職員が参加している。また、事業所間で相互実習を行っており、参加して交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に自宅や入院先に訪問し関係づくりを行ったり、家族や本人にホームに来てもらったり、利用開始当初に家族の面会の回数を多くしてもらったりして、本人が安心できるように支援している。また、入居前に基本情報を収集しアセスメントを十分に行うなど、事前の把握に努め、馴染みやすいよう支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に漬物のつけ方を習って一緒に行ったり、古い歌を教えてもらったり、人生の先輩として節約することの大切さなどを学ぶことが多い。また、職員を気遣ったり、心配してくれたり、利用者が介護されるだけの立場となることなく、家族のような関わりが行われている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	足浴を行う際など、職員と利用者が1対1となる時間に十分に話を聞くなどして、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が難しい場合は、表情や口元、目の動き、態度などから、どう感じているか理解しようと努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制にしており、各利用者の担当職員が中心となって評価を行い、月1回のミーティングの中でケースカンファレンスを行い、介護計画を立てている。	○	介護計画の書式見直しを検討しているので、目標に対する取り組み期間の記入欄を設けたり、家族の同意を必ず取るようにしたりして、利用者や家族にもさらにわかりやすく、具体的な介護計画を作成するよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月ごとに見直しを行っている。状況に合わせて見直しが必要な場合は、ミーティング時に検討している。また、日々のケース記録に添付し、常に介護計画を意識づけるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者家族の宿泊支援やかかりつけ医の受診、理美容院への外出等は、日ごろから支援している。お正月などの自宅への外泊も自由で、家族との日帰り外出も楽しめるよう対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を受診できるようにしており、重度化に伴う往診の希望にも対応できるようにしている。また、協力医療機関との連携も図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに4人の利用者の看取りを行っている。契約時には、利用者や家族に説明を行い同意を得ており、家族や本人の希望に応じて、医療面での支援がホームで可能な状況であれば、最期まで支援していく方針となっている。状況によって変化する家族の気持ちに寄り添い、意向や方針を確認しながら支援に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は事務室にて保管し、ホームだよりの写真掲載についても家族に了解を得ている。言葉づかいについては、以前に家族から意見があり、苦情記録にも残しているが、訪問調査当日には見受けられなかった。	○	言葉により利用者を傷つける場合があることを十分理解し、日頃から全職員の共通認識として言葉遣いをはじめとして、利用者のプライバシーについてさらに検討することを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間に左右されず、利用者一人ひとりのペースを崩すことがないように配慮している。食事においては、自力での摂取を尊重し、時間がかかってもゆっくと時間をかけて食事ができるように支援している。また、毎日入浴したり、足浴したりできるよう、利用者のペースや希望に合わせた支援に努めている。		

長崎県 グループホーム平の庄

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間の献立は作成しているが、差し入れなどによって変更したり、季節のものを取り入れたメニューや行事に合わせたメニューを盛り込んでいる。テーブルセッティングを工夫したり、誕生日に好きなものを食べに出かけたりして、楽しめるよう取り組んでいる。また、自宅から持参した食器や飲みやすいコップを利用してもらうなど、自力摂取しやすいように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとに隔日が入浴日を設けているが、希望により毎日入浴する利用者もおり、利用者ごとに柔軟に支援している。現在は、毎日足浴をする利用者もおり、それぞれの体調や希望に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	貼り絵や絵を描くこと、散歩など、利用者が好んで行うことを自由にできるように支援している。訪問調査時は冬場で、畑仕事等積極的ではなかったが、役割として畑仕事をしている利用者もいる。	○	重度化が進んでいるが、それぞれに合わせて、できることを見出すなど、利用者が役割を持って意欲的に生活ができるよう、さらなる取り組みを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通院やリハビリ、散歩に出かけたり、希望に応じて個人的な買い物や美容院に出かけたりしている。重度の利用者も車いすで外気浴をするなど、できる限り戸外に出る機会を設けるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	午前8時から午後9時までは施錠することなく、玄関や通用口にはチャイムを設置しており、職員は利用者の自由な行動を妨げないように関わっている。利用者が一人で自由に散歩していて、民生委員と一緒に戻ってきたことがあり、地域住民の協力が得られているが、今後とも利用者の細やかな観察、見守りを徹底するよう、全職員の意識を高めて支援にあたるよう取り組みを期待したい。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域住民の協力を得て避難訓練を実施しており、夜間を想定したものも実施している。緊急通報装置は、ベルを押すと登録している10人の職員の家に知らせることができるようになっている。また、防災チェック表を作り、点検個所を一覧にして、日ごろから確認を行い、安全対策を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録として、食事の摂取量や水分補給回数のチェックを行い管理している。水分摂取の状態に合わせて、夜間も必要な利用者にはペットボトルを居室に置き、水分量が確保できるように心がけている。また、体重が量ることができない場合は、2～3ヶ月に1回の血液検査で、栄養状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂などの共用空間は、日当たり、風通しがよく、ソファーにはクッションやひざかけが置かれていて、過ごしやすいう配慮している。また、両ユニットを結ぶ空間には畳の間が設けられ、炬燵も用意されており、利用者がそれぞれに好きなように過ごせる空間づくりを行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や使い慣れた椅子、タンス、寝具、信仰している宗教に関するものなど、それぞれに配置している。また、利用者の身体状況に合わせて、ポータブルトイレを置いたり、ベッドに手すりを加えたり、フローリングを畳敷きに変更したりして、利用者がそれぞれに自立して暮らしやすく、居心地のよい空間づくりを行っている。		